

## 地域と連携したニホンザル被害対策について

津久井地域で生活被害・農業被害を招いているニホンザルの被害を減少させるため、ICT活用型大型捕獲おりを設置したところ、短期間で多くの捕獲成果があがり、今後の被害の減少が期待されています。

### 1 取組の経緯

津久井地域には、6群約300頭のニホンザルの群れが生息し、平成30年度は約120万円の農作物被害を招いています。

従来は小型の捕獲おり(約40基)で毎年約50頭(平成30年度52頭)程度を捕獲してきましたが、生息数は減少せず、集落への日中の出没も頻繁になるなど市民生活への脅威は高まっていました。

特に3群約200頭が生息する藤野の吉野・沢井・佐野川地区では、昨年2月に鳥獣害対策連絡協議会(由森勇会長)を設立し、神奈川県や相模原市と対策を協議してきました(4月には県知事への要望活動も実施)。

市では、こうした協議内容を踏まえ、ICT活用型大型捕獲おりを予算化し、津久井地域の被害対策を実施する相模原市津久井地域鳥獣等被害対策協議会(長谷川兌(とおる)会長)が事業主体となり、市内2箇所大型おりを設置しました。

### 2 地域や農業団体との連携

吉野・沢井・佐野川地区の協議会は、大型おりの設置に協力し、ニホンザルを誘導・定着させるため、地域で収穫された野菜やゆずなどの果樹を提供してきました。また、JA神奈川つくいは、余剰の大豆などの農産物を提供してきました。

### 3 成果

令和2年1月12日、沢井地区の大型おりでニホンザルを15頭捕獲、1月20日には三井地区の大型おりで6頭のニホンザルを捕獲しました。

沢井地区では、12日以降に従来から設置していた小型おり(大型おりの隣)でも5頭のニホンザルを捕獲しており、約1週間で26頭と、昨年度年間捕獲数の半数を捕獲しました。

今後も神奈川県の捕獲許可を得ながら多くの捕獲成果が期待されています。

#### 参考1 ICT活用型大型(幅5m×奥行4m×高2m)捕獲おり「クラウドまるみえほかくん」

おりの入り口に赤外線センサーを設置(太陽光発電型)し、侵入をビデオカメラで撮影。映像を受信した遠隔地で、おりのゲートを閉鎖して捕獲する。

\*県内では厚木市2基、伊勢原市1基で設置されているが捕獲実績は数頭程度。

#### 参考2 ニホンザル管理計画神奈川県民説明会

- ・概要 第4次神奈川県ニホンザル管理計画県民説明会
- ・日時 令和2年1月25日(土)午後2時~4時(定員80人・先着順)
- ・場所 神奈川県立相模湖交流センター アートギャラリー(緑区与瀬259-1)

問合せ先  
津久井地域経済課  
042-780-1416